

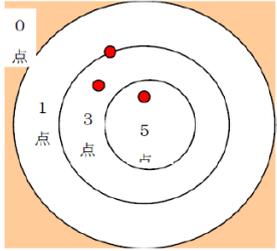
社会的オープンエンドな問題

日本では、「数学的な考え方」を伸ばすために、オープンエンドな問題を用いた教授法を積極的に活用してきた。そして、飯田(1994)は、このオープンエンドな問題の問題解決において、価値観が表出する場合があることを指摘した。

馬場(2007, 2009)は、問題解決におけるこの価値観表出に積極的な意味を与え、このタイプの問題を社会的オープンエンドな問題と呼んだ。21世紀の社会は、科学技術の高度化によって可能性が広がり、他方で、性別のみならず民族、社会階層、都僻などを含む多くの異なった属性、権利、考え方などが主張されるようになった。このことは問題解決においても、前提とする価値観によって回答が異なる可能性を示唆する。

馬場はこのような社会的オープンエンドな問題を表のように特徴づけている。問題例としての的当て問題を挙げる。

問 文化祭でクラスイベントをすることにになりました。的当てを準備し、参加した人に点数に応じて景品を上げることにしました。1年生の子どもは、図のようになりました。あなたはこの1年生に何点あげますか。あなたの考えを書きましょう。



社会性は問題が持つ文脈にあるとともに、解決過程で表出する価値観にも、最終的な解決過程にも見られる。

【参考文献】

	数学的オープンエンドな問題	社会的オープンエンドな問題
目標	数学的考え方の育成	数学的考え方をを用いた社会的判断力の育成
問題	数学的多様な解を有する	数学的・社会的多様な解を有する
方法	数学的多様な解と一般化, 記号化による数学の深まり	数学的・社会的多様な解と価値観に基づく議論による